

CES 活動ニュース

1. テーマは“水”。CES 環境講座（第 5 期生）がスタートします

CES 推進協議会では、例年、環境活動を推進する人材を育成することを目的に、「CES 環境講座」を開講しています。第 5 期生を迎えることとなる今年度の環境講座は、8 月 31 日（土）～12 月 14 日（土）までの全 6 回の日程で実施します。

今期のテーマは“水”。「神田川の源泉を訪ねる」（第 2 回 井の頭自然文化園にて）、「都市部の水活用を学ぶ」（第 4 回 丸の内熱供給 丸の内二丁目センターにて）等、体験型のフィールドワーク中心で行います。

なお、テーマである“水”は、昨年度の CES 環境講座受講生が企画したものをベースに決定しました。ちなみに、現在実施している事業のひとつ「CES さくら咲くプロジェクト」（下記 3. 参照）も、昨年度の受講生が企画し、実施に至ったものです。

CES 環境講座では毎年、修了生の中から新たに環境リーダーとして登録していただいている方が数多くいらっしゃいます。単に「CES 環境講座」の中で学ぶだけでなく、その後も実際に行動を起こすことができる講座となっています。今回はどんな方との出会いや活動が生まれるのでしょうか。とても楽しみです。

平成 25 年度 CES 環境講座の詳しい情報はこちら↓
<http://chiyoda-ces.jp/class1/lecture/#/entry>



平成 25 年度 環境リーダー養成 CES 環境講座
 千代田のエコ活動を推進する「CES (千代田エコシステム)」の「環境リーダー」の育成と、環境問題の解決を目指すために、環境と共生を推進する「CES 環境講座」を開催いたします。昨年度も、この講座で多くの受講生が誕生し、今年度も定員いっぱいとなっております。申し込みは先着順です。

講座期間
 平成 25 年 8 月 31 日(土)～12 月 14 日(土) 全 6 回

会場
 千代田区役所・丸の内熱供給 丸の内二丁目センター・東京都水道歴史館・井の頭自然文化園・稲荷橋公園 ほか

定員
 30 名 ※申込み先着順（定員超過は入替制となります）

参加費 無料
※ただし、井の頭自然文化園は入場料自己負担

申込受付期間
 8 月 5 日(月) から 8 月 23 日(金) まで
※期間中であっても、定員に達した場合はその時点で受付を閉じます。

申込方法 FAX またはメールで申し込みください。
 「FAX でお申し込みの方」
 応募申込書上の必要項目を記入の上、CES 事務局まで事務局まで。
FAX 受付 03-5211-9085
 「Eメールでお申し込みの方」
 Eメールの応募申込書に必要項目を入力して、送信してください。
お問い合わせ info@chiyoda-ces.jp
*お振替口座：〒100-8302 千代田区千代田 1-2-1 千代田環境センター 事務局

CES 推進協議会 事務局
 〒100-8302 千代田区千代田 1-2-1 千代田環境センター 6 階
 電話：03-5211-9085(1 外線) メール: info@chiyoda-ces.jp
 〒100-8302 千代田区千代田 1-2-1 千代田環境センター 事務局



平成 24 年度 CES 環境講座 ヨシ刈りの様子

2. CES 特別公開講座「ヒートアイランドの現状と対策」講演会を実施

去る 8 月 5 日（月）、特別公開講座として、九段生涯学習館において「ヒートアイランドの現状と対策」と題した講演会を開催しました。

講師には、日本工業大学建築学科教授の三坂育正先生を迎えての講演で、69 名の方々が聴講されました。

聴講された方からは、

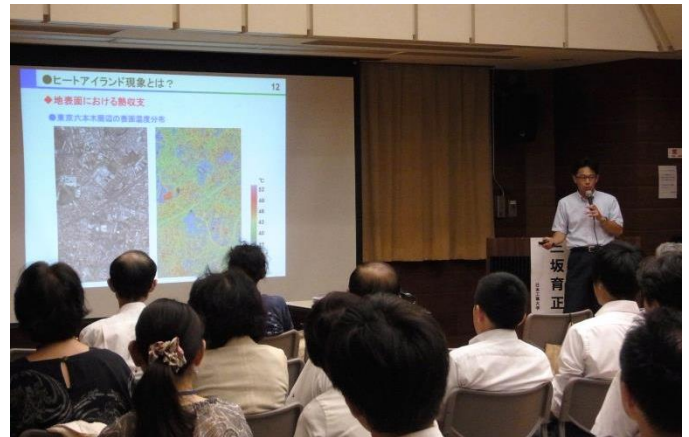
「ヒートアイランドと地球温暖化の違いを判りやすく整理してご説明いただき、理解の助けとなりました。」

「ヒートアイランドの現状がくわしく、良くわかりました。個人でできることもたくさんあると勉強になりました。」

「最近問題になっているヒートアイランド現象を原因とする酷暑の背景の対策を聞いて、ためになった。」など、たくさんのご感想をいただき、タイムリーな講演であったと考えております。

また、参加者に今後希望する講演のテーマについて伺った結果、「世界的な環境対策の例」、「中小企業、個人商店の先進的な環境への取組み」、「地中を利用した環境改善」、「千代田区の緑化状況について」、「千代田区内の川と水質の問題」「CES活動の実例、発表」等々 幅広いテーマが寄せられ、環境に対する関心の高さが伺えました。

なお、当日は、明治大学大森研究ゼミの学生や、環境リーダーの皆さんに多大なご協力をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。有難うございました。



たくさんの資料を使って詳しく説明していただきました

3. CESさくら咲くプロジェクト「夏編2」を実施

今年度注目の企画であります「CESさくら咲くプロジェクト」の「夏編-2」が、8月28日（水）の早朝、皇居外苑にて開催されました。

今回は、環境に関心をもつ若い男女に参加していただき、「早朝の新鮮な空気を胸一杯に・・・体内環境を整え、軽いヨガ体操ののち、エコな軽食を！」と、しゃれてみました。

この企画は、7月に催した「夏編-1」の続編で、これまでのCESの企画には例のない斬新なもので、参加者の感想や意見が楽しみなところでしたが、皆、早朝の澄み切った皇居の景観に触れ、素足で芝生を踏みしめながらのヨガ体操など、それぞれに自然のもつ環境の素晴らしさを実感していただいたようです。

事務局としては、この企画をプロデュースしていただいた、環境リーダーの皆さんに改めてお礼を申し上げます。



4. その他の活動

千代田区CESクラスⅢ監査

日程：8月15日（木） 場所：区役所

※今年度の千代田区のクラスⅢ監査はこれで終了となります。現在、総括監査員を中心に監査結果報

告書を作成中です。

第5回環境リーダー会議

日程：8月19日（月） 場所：区役所会議室

かんきょう

「バーチャル・ウォーター」ってご存知ですか・・・！

もしも輸入食糧や輸入製品を国内で作るとしたら、その生産プロセスで必要になる水の量のことを云います。仮に、1kgの牛肉を生産する為には、最低でも1万5千リットルの水が必要だそうです。牛がそんなに水を飲むわけがないと思われそうですが、この計算には、牛を育てるための飼料の生産に使われる水も含まれています。

例えば、日本でアメリカ産の牛肉1kgを買い付けたとすると、同時に目に見えない1万5千リットルの水を間接的に輸入していると言うことがいえるわけです。そうした考え方で算出された水量を、「バーチャル・ウォーター」（仮想水）と呼ぶそうです。

地球上の水の総量は、約14億km³。しかし、人間が使える水資源は、そのうち約0.8%以下だそうです。今も世界各地で水不足が起こっています。

日本の食料自給率を見ても、日本は海外の水に依存して生きているといえます。日本のバーチャル・ウォーター（仮想水）の総輸入量は、年間約640億m³。つまり、国内で使われた水量（約900億m³/年）の約3分の2にも相当する外国の水資源を、知らないうちに消費しているということになります。

こうしてみると、海の向こうの水不足は、私たち自身の問題でもあるわけです。

さて、この問題を取り上げたのは、たまたま、今年度の「CES環境講座」のテーマが「水」と言うことでもあり、関心の一つにつながればと思った幸いです。

s k



（環境省HP、東京大学生産技術研究所 沖大幹教授『世界の水危機、日本の水問題』、地球環境クイズ研究会著書より引用）

